



慶應義塾大学 SFC 研究所 ソーシャルファブリケーションラボ様

〒231-0023
神奈川県横浜市中区山下町 223-1
NU 関内ビル 2F
お話を伺った方：大野 一生 様
ご使用機種：MF-2200D

Q. MF-2200D をお選びいただいた理由を教えてください。

私たちは文部科学省の『革新的イノベーション創出プログラム』に基づき新型の3Dプリンタを開発していますが、その試作実験用に国産の3Dプリンタを探していました。そこで、サイズ感や構造などが求めている条件にぴったりだったMF-2200Dを知り、採用することにしました。



Q. どのように活用されていますか？

プログラムの一環として、独自に開発したモデリングツールやツールパス生成ソフトを用いて建築分野や介護用の義肢などの内部構造の研究に使っています。出力物の強度や柔軟性はその内部構造によって変化するので、様々な形にモデリングする必要があります。MF-2200Dでは、なるべく材料を多く使わずに、また複数の材料を組み合わせることで最適な強度を得られる構造をサンプル出力して探究しています。

Q. 使用されて良かった点がありますか？

2ヘッドが独立に操作できるという点では、国内唯一の製品です。オリジナルのパス生成ソフトでデータの出力を試すことができ、オリジナルソフトの検証ができるので研究の幅が広がります。また、MUTOHは国内で生産・サポートを行っているためメンテナンスや部品の交換などの対応が早く助かります。

Q. 弊社へのご要望があればお願いします。

当ラボでは学生たちも3Dプリンタを活用して勉強しています。いまはミニチュアサイズのサンプルを製作していますが、実際の身体スケールで造形出力できる3Dプリンタがあると学生たちの研究もより深まるのではないかと考えています。また世界レベルでは日進月歩でスライサーソフトなどが開発されており、それらをいち早く取り入れていただけると研究教育の現場ではありがたいです。